



花田 尊徳

総合理工学府
量子プロセス理工学専攻
修士 2年

独立行政法人産業技術総合研究所(産総研)で行った、プラクティススクールについて報告します。産総研は、産業技術の向上を通じて社会の発展に寄与することを基本理念とした公的研究機関です。産総研のミッションとして、持続的発展可能な社会実現や、産業競争力強化、産業政策の地域展開、産業技術政策立案、技術経営力の強化に寄与する人材育成への貢献を掲げています。私が所属させて頂いた、エネルギー技術研究部門電力エネルギー基板グループでは、二酸化炭素排出抑制に大きな効果を持つ、新概念の省エネルギー超低損失パワーデバイス実現へ向けた開発を行い、その候補として、優れた物性や結晶性を持ち、資源の制約もないダイヤモンド半導体を取り上げています。技術研修では、実際にクリーンルーム内に入り、現場でしか知り得ない、半導体プロセスを行う上でのテクニカルなノウハウを学ぶことができました。新規材料を用いたデバイスの実用化へ筋道をつけていくために、要求される物性の物理的理解、その物性を利用した新しいデバイス物理の構築、材料プロセス・デバイス作製プロセスの問題点の抽出とその解決策の検討を総合的に行うといった方法論を、実習を通して養うことができました。

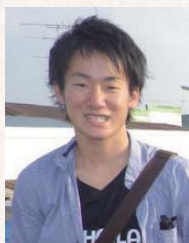


正木 悠聖

工学府
地球資源システム工学専攻
修士 2年

こんにちは。現在私は、グリーンアジア国際戦略プログラムを通して大変有意義な学生生活を送っています。当プログラムの一つの特徴でもある他分野における知見の蓄積は、自分の専門範囲外のさまざまな分野の特別講義を受講することで行っています。それらによって最近では、環境経済学的または社会システム学的な観点から物事を捉えようとする意識が芽生えてきました。いままで見えてこなかったものを考えられるようになり、物事を深く理解することができるようになったと感じます。また、最近行った研究室ローテーションの一つでは、XAFS(X線吸収微細構造)の理論や測定方法を学び、それは非常に興味深く、将来必ず自分の研究に役立つと確信しました。実際に佐賀シンクロtron光研究センターの九州大学BLで測定を行ったことで、これまで議論できなかった範囲の結果を得ることができ、研究における分析手段の幅が大幅に広がったと感じました。

今後、当プログラムによるインターンシップや、特別講義などが予定されており、これらを糧にして、将来に生かしていきたいと考えています。



松本 親樹

工学府
地球資源システム工学専攻
修士 2年

私は昨年の末より本プログラムに参加し、Leading生として既に半年以上が経過しましたが、この半年間で数々の貴重な経験を得ることができました。Leading Programでは、自身の研究分野のみならず幅広い知識を身につけるために他の研究室において短期間の研究を行う「ラボローテーション」や、他大学や企業において実践的な技術や知識を身につけることを目的とした「プラクティススクール」など、通常の授業とは異なるカリキュラムが実施されています。私はプラクティススクールにおいて、今年の5月に約1カ月間カナダのWaterloo大学において開催された短期スクールに参加しました。本スクールには世界中から幅広い年齢層の研究者や企業の人々が参加しており、4・5人で構成されたグループで与えられた課題や現場調査を行うという内容でした。野外調査では実務現場で実際に利用されている手法や機器を使用して調査を行うことで実践的な技術を学ぶことができ、また国籍・年齢の異なる人々と議論し結論を導くという非常に貴重な経験を得ることができました。このように世界に焦点を当てた本プログラムは、将来世界で働くことを視野に入れている学生にとっては非常に有益なプログラムであると思います。

